

令和7年度 大津市立逢坂幼稚園 学校教育評価の結果

1. 逢坂幼稚園の教育目標

- ・自分も人も大好きな子ども
- ・思いきり楽しめる子ども
- ・最後まであきらめない子ども

2. 本年度に定めた重点的に取り組む目標・学校評価の具体的な評価項目

重点的に取り組む目標	人と関わる力の育成 ～異年齢とつながり合う環境・援助を考える～
------------	---------------------------------

重点項目	評価項目	取組指標	取組結果	成果指標	成果結果	総括評価	評価結果に関する説明・意見等
人と関わる力の育成	人とつながり合うための環境・援助	子ども同士の手で関わり合えるよう必要な援助を行う	4	様々な人と関わり、受け入れ認め合えるようになる	3,75	A 3,78	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して3学年が一つの保育室で過ごしたことで、異年齢の友達と自然な関わりが生まれた。多様な人間関係の中で人の立場になって考える経験や、様々な感情体験に繋がった。 ・教師が関わる方がよいのか、見守る方がよいのかを見極めながら援助をしてきた。自ら人に関わる経験を積み重ねられるように努めてきたことで、自己発揮する姿が育ってきた。 ・5歳児は互いに受け入れ認め合える育ちに繋がったが、3歳児はまだその途中段階である。3年間で育っていくものであることを見通して発達に応じたねらいをもちながら保育を進めていきたい。
		カンファレンスを通して子どもの姿を多角的に捉え、共有する		自己発揮しながら友達と関わるができる			
		学年の発達に応じた環境構成・援助を行う		やりたいことを見つけて思いを出しながら遊ぶ			
		全職員が全園児のことを知る		安心して過ごすことができる			

保幼小の円滑な接続と連携	学びの連続性を意識した保育実践	カリキュラムに基づいた実践を記録し、再編成する。	3,75	学びの連続性を理解し保育を推進できるようになる	3,75	A 3,78	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校と子どもの姿や教師の願いなどについて協議を重ね、幼保こ小架け橋期カリキュラムを作成した。また、合同研修会を行ったり、互いの研究保育・授業にも参加したりすることで、子どもの姿や学びの連続性に見通しをもてるようになってきた。 ・5・5交流や日常的な交流を通して子どもも教師も小学校教育への理解は深まったので、粘り強く自ら進んで取り組む子を育て小学校へ繋げていきたい。
		学区の校園で架け橋期カリキュラムを作成する		成長に見通しをもつと共に、子どもの実態に応じた保育ができる			
		園内研修や合同研修に参加する		小学校教育の実践を知り、理解が深まっている			
		保小の職員を知る		職員の関係性ができ、子どもに合った交流実践に繋がられている			

未就園児活動の充実	つながりづくり 未就園児親子と園との	外部から講師を招いた子育て支援イベントを行う	4	新たな未就園児親子が幼稚園に足を運ぶきっかけとなり、参加者が増える	4	A 4	<ul style="list-style-type: none"> ・在園児保護者と未就園児保護者との交流の機会を3回設けたことで、回を重ねるごとに未就園児保護者が幼稚園生活について気軽に知ることができ、期待に繋がった。 ・在園児の保育に未就園児親子が参加したり、行事の見学をしたりすることで、幼稚園教育について知ってもらうことができた。 ・未就園児活動を週に3回に増やし、定期的にイベントを開催することで新たな参加者が増え、継続して通ってもらえるようになった。
		未就園児活動の数を増やし、その具体的な内容を発信する		未就園児活動に期待をもち、継続して通うことができる			
		在園児の保育に参加したり、行事の見学をしたりする機会を設ける		在園児の様子を知り幼稚園に興味をもつ			
		在園児保護者と未就園児保護者との交流の場をつくる		未就園児保護者が入園に期待と安心感をもつことができる			

3. 学校関係者評価及び意見の概要

- ・協力者会議の参観において子どもが自分たちで準備したり、友達同士で思いを出し合ったりしている主体的な姿が見て取れた。
- ・多様な子どもがいる中で、子ども達が受け入れ、寄り添い、認め合っている姿から育ちが伺えた。
- ・ICT活用は、子どもが日常の中で興味・関心をもったことや園の中で活動できないことをYouTubeなどで映像を見せる利用方法もあるのではないかな。
- ・保護者評価については、幼稚園での活動をSNSを活用して発信したり、HPに動画を貼り付けたりすると共に、その発信もその都度伝えて見てもらう工夫をすると、園での子どもの成長がより伝わるのではないかな。
- ・今年度は幼小連携も計画的に行い、カリキュラム作成につながった。来年度に向けて検証とブラッシュアップをしていくことを期待する。

4. 自己評価結果と学校関係者評価の結果を踏まえた、学校評価の具体的な目標の総合的な評価結果の概要・今後に向けて

結果	理由
3	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数で固定化された人間関係の中で、より人と関わる力の育成について工夫していく必要がある。学年の発達と様々な人と関わる力を育むための保育の在り方について、まずは各担任の学級経営を尊重し、学級が安定してから交流実践につなげたいと考える。 ・今年度架け橋期カリキュラムを作成したので、幼稚園と小学校で実践していける具体案が考えられた。近隣の保幼小との合同研修は定期的に行いつつ、まずは逢坂小学校、幼稚園で子どもも教師も行き交える交流をめざし、学びにつながる実践に取り組みたい。 ・未就園児親子の毎日の保育室開放を3月より開始したところである。来年度は長期休業中の毎日開放を行い、未就園児親子の安心して遊べる居場所づくりと幼稚園理解につなげたい。